

令和4年度経済学部学生チャレンジプロジェクト事業成果報告書

瀬戸内の島々で体験型アート

—木に刻まれた芸術、菓子木型の魅力を体感！—

代表 山本 彩香（経済学科 2年生）

(1)目的と概要

私たち KAGAWA Maker は「お菓子を香川を盛り上げる」を目標に活動している学生プロジェクトである。その活動の一環として、これまでに香川の伝統的工芸品である菓子木型を使った和三盆ワークショップを開催し、菓子木型・和三盆を伝える活動を継続的に行ってきた。

本事業では、香川県内外を問わず、より多くの人々に菓子木型や和三盆の魅力を発信することを目的に、3年に1度開催される「瀬戸内国際芸術祭2022」にちなみ、和三盆ワークショップを直島、小豆島、沙弥島、男木島、多度津の5か所で開催した。そして、それぞれの場所で活動している学生プロジェクトと協力して、高松市以外の地域にもワークショップを行うことで、活動の場を広げるとともに、プロジェクト間の交流を深めることも目的のひとつである。プロジェクト間で協力して、お互いのSNSを使って広報活動を行うことで、より多くの方々に菓子木型や和三盆の魅力を伝えながら、私たち香川大学学生プロジェクトの活動を社会全体へ発信していくことができると考えている。

(2)実施期間

令和4年7月1日から令和5年3月31日まで

開催日	開催場所	協力したプロジェクト
8/27(土)	男木島 男木島図書館	男木島プロジェクト ここちから
9/2(金)	直島 和カフェ ぐう	直島活性化プロジェクト
10/15(土)	沙弥島 瀬戸大橋記念館	沙弥島さかいでプロジェクト
10/23(日)	小豆島 サイクルステーション	小豆島プロジェクト
11/6(日)	多度津 まことPLAZA	たどつまちLabo

瀬戸内国際芸術祭 2022 夏会期：ワークショップ

秋会期：ワークショップ

11月以降

：反省・改善

(3)成果の内容

1)このプロジェクトの具体的な成果

平均して、1回のワークショップにつき10人以上参加していただいた。目的にもある

ように、瀬戸内国際芸術祭を見に来た県外からの観光客にも体験してもらうことが出来た。

体験していただいた世代は幅広く、小さな子供からお年寄りまで楽しんでくださった。また、和三盆干菓子を手作りするのが初めての方も多く、和三盆干菓子・和三盆木型の魅力をより多くの人に知ってもらえる良い機会となった。

開催日	参加人数
8/27(土) 男木島	11人
9/2(金) 直島	8人
10/15(土) 沙弥島	14人
10/23(日) 小豆島	10人
11/6(日) 多度津	17人

活動の様子

8/27 男木島



9/2 直島



10/15 沙弥島



10/23 小豆島



11/6 多度津



2)このプロジェクトが大学や地域社会の活性化、学業の振興等に対してもたらした影響あるいは効果

ワークショップを通して、県内外問わず、多くの方に香川県の伝統工芸品である和三盆・木型を広めることが出来た。そして、既に知っている方でも、実際に触れることで身近に感じて頂いたり、和三盆の歴史や木型の知識も併せて知ってもらえたりした。今回の事業を行うにあたり、新たに作成した各地域にちなんだオリジナル木型も好評で、木型のデザイン性やユニークさを伝えられた。和三盆、和三盆干菓子、木型にそれぞれ興味を持

っていただくことも多く、1つのワークショップで沢山の魅力を伝えられた。

また、香川大学の学生プロジェクトとコラボすることで、プロジェクト間の交流を深められただけでなく、相互に認知度を高め合えた。KAGAWA Maker が“スイーツ”を通して香川県全体を広めていくのに対し、“地域”そのものを活性化させていく他のプロジェクトが結びつくことで、両者の特徴や長所を利用して、相乗効果を生み出し、地域活性化をさらに促進することが出来た。プロジェクト間の協力は、今回の事業に限らず、これからの活動でも活発に行っていきたいと考えている。そして、複数のプロジェクトが関わり合うことで、香川大学が地域に根差した活動に力を入れていることもアピールできたと思う。

さらに、ワークショップを開催している私たち自身も、和三盆の魅力や歴史を再確認できる良い機会となった。魅力を発信していく側として、今以上に和三盆の魅力が伝わるようにするためには、どのように発信していくかを考えていきたい。

(4)プロジェクトから学んだこと

観光客向けのワークショップを行う上で、集客が困難であった。まず、島を訪れる観光客は予めスケジュールを立てている場合が多く、当日に呼び込みを行っても実際に体験に結び付けられる数が少なかった。フェリーの待ち時間や乗り換え時間などの観光の隙間時間を利用することで、多くの人に体験してもらうことが出来ると考える。しかし、和三盆干菓子の体験ワークショップは、一回あたり20～30分ほどかかる。そこで、最初の裏ごしという作業を省き、和三盆を木型に詰めるところから体験してもらうようにしたり、作業の工程を分かりやすくしたりするなど、体験時間を短縮する工夫が必要だと思った。

また、県外の人には KAGAWA Maker の存在があまり知られておらず、事前に SNS で広報を行っても、集客効果がかなり低いことが分かった。県外の人々の和三盆や KAGAWA Maker に対する認知度を上げたり、開催場所を提供してくださる施設の方や、協力するプロジェクトに対して積極的な広報活動にも協力してもらう呼びかけを事前に行うべきだと反省した。

予定していたワークショップがすべて終わった後にプロジェクト全体で振り返りを行い、反省点を改善するようにした。まず、作業工程が分かりにくいという問題に対し、作業工程を簡単にまとめた写真付きの資料を作成した。そして、プロジェクトメンバー内での経験値の差の問題には、準備物リストの作成、ワークショップの流れの再確認、和三盆づくりを教える練習など、準備の段階から体験まで一から振り返った。他にも、ワークショップ内容が分かりにくいといった問題に対し、当日来た人にワークショップ内容を伝えるため、遠くからでも一目見て分かるような POP や、新しいのぼりの作成を行った。

(5)実施メンバー

山本彩香	経済学部	2年	[代表者]
岡希美	教育学部	3年	
福家楓	農学部	3年	
下元優	経済学部	3年	
原桜子	法学部	3年	
佐々木文萌	教育学部	2年	
下地彩音	経済学部	2年	
静川綾乃	農学部	2年	
岡桃子	経済学部	1年	
石田紗愛	経済学部	1年	
田村萌乃華	経済学部	1年	
松井茉凜音	経済学部	1年	
近藤彩音	経済学部	1年	
堀田夏未	法学部	1年	
義若奈津子	法学部	1年	
岩本梨	農学部	1年	
水谷千穂	農学部	1年	
溝渕静	農学部	1年	